怡土人権だより

令和元年度
第２号
11 月 15 日発行

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部

略称【市同協怡土支部】
☎322-7815

今年の人権映画祭は・・・

「あの日のオルガン」
―真実の物語「疎開保育園」の感動―

12 月 1 日
13 時～開場
怡土公民館で開催

時代は戦争末期の１９４４年、学童疎開は始まっていたが、より幼い保育園児の疎開について、政府は認めていなかった。

当時は何があろうと幼児は親と暮らすのが当然であったのだ。

それゆえ、53 人の園児の疎開は政府の支援もなく、反対する親もいる中で始まった。

今回の人権映画は、守るべきもののために行動を起こした保母たちの苦闘のものがたりである。

観る者には、締め付けられるような感動を与えてくれる。

【あらすじ】

理想とは異なり、ボロボロの荒れ寺に構えた「疎開保育園」にきびしい現実が大きく立ちふさがった。

開園はどうにか乗り切ったものの戦況の悪化は大切なものを奪っていった。

村からの食べ物の供給は減り、朝起きると同僚が消え、肉親や同僚も空襲の犠牲になってしまう。

それでも、みっちゃん先生（大原桜子）が弾くオルガンの音に子ども達は集まってくる。

この荒れ寺には、消えそうでも保育園の姿があった。

主任保母の板倉楓（戸田恵梨香）は、リーダーとして先頭に立ち、疎開保育園をささえてきたが、そんな彼女も耐え切れず壊れていく。

感情が溢れ出し、号泣する彼女は・・・？

そして終戦を迎えた子どもたちは・・・？

他に橋爪功、林家正蔵、田中直樹、田畑智子、福地桃子などの名俳優陣が出演します。皆さんのご参加をお待ちしています。

【高祖行政区推進委員】

三支部交流会

８月２日に波多江公民館に於いて、今年は波多江支部、雷山支部と前原東中学校、糸島農業高校より 32 名が参加し交流会を開催しました。

前原東中の人権活動の取組みを紹介いただき、特に生徒会人権正副委員長による発表には感銘致しました。

第二部は３グループに分かれ「人権の視点で学校との連携はどうあるべきか」をテーマに意見交換を行いました。

今後の人権意識向上の活動の重要性について認識を共有できました。

【王丸行政区推進委員】

秋のフィールドワークのお知らせ

今年度は、支部として３年来の研修希望地でありました熊本の菊池恵楓園に11月26日に行くことが出来るようになりました。

今年度は、怡土校区の人権推進委員と一緒に民生児童委員の皆さんも参加されます。

午後から３時間というハードな研修ですが、一生懸命学んできます。

怡土小公開授業のお知らせ

開催日：12 月 4 日（水）
場　所：怡土小学校
時　間：13：45～14:30

１年生から６年生まで、全クラスで人権学習が行われます。
誰でも参加できます。
ぜひとも覗いてみて下さい。

人権講演会に参加して

同和問題啓発強調月間の取組み

福岡県は、毎年７月を「同和問題啓発強調月間」としています。

７月13日（土）、市同協怡土支部主催による「人権講演会」が怡土公民館に於いて開催されましたので参加しました。

講師は、大分県観光特使も務める「矢野大和さん」。演題は「笑って元気！必要とされる喜び」

矢野さんの講演はプロフィールにも記されていたとおり、笑いをふんだんに取り入れ、軽快なテンポで聴く者を引き付け、さり気なく人権問題を語り問題提起をされます。

まさしく、「講演」でなく「口演」でした。

笑いの中に、納得・考えさせられる事が随所にありました。

「人は人から元気をもらう。」「人は必要とされることに喜びと生きがいを感じる。」「人に有難う・助かりますと言えば、相手はこの人の役に立っているという実感が湧き、生きる喜び・力となる。」

「人は努力し頑張れば８割は何とかできる。」そこにチャンスが生まれる。

しかし、いくら努力しても頑張ってもどうにもならない解決できないことがある。

「容姿・肌の色・生まれたところ（故郷）・血筋・・・等々」

矢野大和さんの口演の模様

人を元気にすることが出来る人は、余裕がある。

余裕のある人は、相手の話を否定しない。うなずいて「そういう考え方もありますね」と肯定から入り人をほめることが出来る。

余裕のない人は、相手の話を否定し、腐して相手より上に立とうとする。そのことで元気を貰おうとする。

国際連合憲章の中で、英語に訳せない差別がある。それは、日本の「同和問題」。これは、日本の恥。同じ日本人なのに生まれたところが違うだけで、生まれながらにして永年差別を受けてきた人々がいる。

考えられないこと。

これが根底にあり、まだ完全に解決されず、また、イジメや虐待等の人権侵害が広まっている状況にもあることから、人権の研修が必要であることを理解していかなければならないと思った。【井原行政区推進委員】

市内フィールドワークに参加して
～　志摩　蓮照寺　～

秋のフィールドワークは熊本の菊池恵楓園に行くことが決まっていましたので事前学習の意味も含めて、「ハンセン病の薬を作って全国の患者さんに生きる勇気を与えてこられた」志摩稲富の蓮照寺さんに６月25日(火)に行ってきました。

本堂は改築されていましたが、薬を販売されていた時の看板や薬を患者さんに手渡ししていた小窓、薬を作っていた道具などが大事に保管されていました。

薬作りには、近所の方々がたくさん手伝ってくれていたそうです。地域と共に取り組んでいた心温まる話がここにもありました。糸島に生まれ育ったにもかかわらず、糸島で、ハンセン病の薬を作っていたことを知って大変驚きました。

【曽根行政区推委員】

出前映画実施報告

今年度も行政区研修（出前映画）は順調に実施することが出来ました。

行政区長、推進委員の方々のご協力と取り組みには感謝いたしております。有難うございました。

王丸(7/7)
曽根・井田・井原(10/6)
末永(11/3)
三雲（12/１予定）